

目的　腸管からのカルシウムの吸収には種々の調節機序が働いている。カルシウム、ビタミンD、タンパク質、乳糖、脂肪の摂取量やカルシウムとリン比などが影響をもたらすといわれている。今回、演者らは濾紙粉末がカルシウムの吸収率にどのような影響を与えるかを煮干粉と炭酸カルシウムを用い、幼若ラットについて検討したので報告する。

方法　ウイスター系の幼若ラット（5週令）を用い、濾紙粉末の無添加群と添加群をもうけ、1区5匹とした。1週間予備飼育したのち、1匹ずつ代謝ゲージに入れ本実験を開始した。1週間分の飼料摂取量と排糞量を求め、それぞれのカルシウム含量より見かけの吸収率を算出し、比較した。カルシウムの定量は過マンガン酸容量法によった。

結果　幼若ラットにおいて、濾紙粉末の無添加群では、試験区は対照区に比して著しく低い吸収率を示した。無添加群と添加群を比較すると、両群の対照区では、添加群がいくぶん高い吸収率を示し、両群の試験区においては添加群が著しく高い吸収率を示した。結果として、添加群の対照区と試験区においては大きな差は認められなかったが、試験区では濾紙粉末の添加の有無がカルシウムの吸収に大きな影響をもたらすことが認められた。

なお、成熟ラットにおいてもほぼ同様な傾向が認められるものかどうか目下追求中である。